

正義と平和

平和祈念礼拝

2026・8・9

「争い」の原因(チャットgpt)

- 自己中心性
 - 「自分の思い通りになってほしい」
- 欲望と執着
 - 名誉、お金、権力、成功、などへの過度な執着
- 恐れ
 - 失敗への恐れ・将来への不安
- 誤解とコミュニケーション不足
 - 相手の真意を確かめずに判断する。
- 赦せない心
 - 過去の傷を握り続けることで、憎しみや復讐心が育ちます。

「争い」の原因は「正義」(堀川節)

- 人はそれぞれ「正義(正しさ)」を持つ
 - あらゆる事柄において判断の基準となる
 - 自分の「正義」が絶対的に正しいとは限らない
 - 正義を自分に当てはめている間は何の問題も起こらない
- 自分の「正義」を他人に振りかざした瞬間に争いが起こる
 - ただ単に自分の考えと違っているだけなのに、「間違い」と定めることになる(裁く)
 - 間違っていると言われた方にも「正義」があるので、争いが生じる

イエスの「正義」

「御自分のことを言いふらさないようにと戒められた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。『見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。**彼は異邦人に正義を知らせる。**彼は争わず、叫ばず、その声を聞く者は大通りにはいない。**正義を勝利に導くまで、**彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。異邦人は彼の名に望みをかける。』」マタイ12:17-21

正義を勝利に導くために

- イエスは神の正義をもたらすために遣わされた
 - ユダヤ人だけではなく異邦人にも＝全人類に
- 正義を知らせるために
 - 「彼は争わず」：人間は正義のために争うが
 - 「叫ばず、その声を聞く者は大通りにいない」：多くの人に自分の正義を押し付けない
- 「正義を勝利に導くまで」
 - 「彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない」：傷んだ人をケアし、弱者に寄り添う
 - 彼らはこの世の正義（強者の正義）の犠牲になっている人たち

正義を勝利に導くために

- イエスは神の正義をもたらすために遣わされた

イエスは、この世の正義の犠牲者を救うことで神の正義を実現しようとされた

- 「彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない」：傷んだ人をケアし、弱者に寄り添う
- 彼らはこの世の正義（強者の正義）の犠牲になっている人たち

完全な正義を実現するために

- 神のみが「完全な正義」を持っている
 - 人間の考える正義は不完全である
- もし神がその正義を人類に振りかざしたらどうなるか？
 - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」ローマ3:23
- 神はその正義を独り子に振り下ろした
 - 「そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」イザヤ53:6
- そして私たちを裁かなかった
 - 「わたしもあなたを罪に定めない。」ヨハネ8:11

パウロの考え

「だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。」ローマ12:17-18

- 「すべての人の前で善を行う」

- 「正義」ではなく「善」を行う
- 悪に悪で対抗すると争いが起こる

- 「すべて人と平和に暮らしなさい」

- 「せめてあなたがたは」: 少なくともあなたが関わる人たちとは平和を維持しなさい

平和はすべてに優先する

- 自らの「正義」を振りかざさない
 - 神でさえその正義を私たちに振りかざさず（裁かず）自らの独り子に振り下ろした
 - 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。」マタイ7:1
- 平和こそ神が最も望まれていることである
 - 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」マタイ5:9
 - 神は平和の神であるから